

「国際禅研究プロジェクト」(伊吹科研)

研究発表例会(併催:マルタ・サンヴィド先生講演会)

日時:2021年12月18日(土) 13:00~15:15

(Webex 利用によりリモートで行います)

※参加を希望される方は下記のメールアドレスにご連絡下さい。追って招待状を送らせて頂きます。

聴講歓迎・入場無料



研究発表

伊吹敦(東洋大学教授) 13:00~14:00

『内證佛法相承血脈譜』の編輯過程について—初期禅宗文献が最澄に与えた影響—

要旨: 最澄の主著の一つである『内證佛法相承血脈譜』には、『付法簡子』や『西國佛祖代相承傳法記』等、数種の散逸した初期禅宗文献が引用されているが、それらが最澄の思想形成に与えた影響、ならびに、それらの文献の性格等について再検討を行い、拙稿「最澄が傳えた初期禅宗文献について」(1997)の所論の修正を試みる。

講演

マルタ・サンヴィド(Marta SANVIDO, Ph.D., Postdoctoral Fellow, UC Berkeley) 14:15~15:15

「近世曹洞禅宗における伝説の秘伝化—「片岡山飢人説話」を中心に—」(日本語)

要旨: 片岡山で聖徳太子が出会ったという飢人は、当初、尸解仙とされたが、その後の展開において達磨であったとされ、やがて、その地に達磨寺が建立されることになった。本発表では、曹洞宗の切紙である「知死期切紙」を取り上げ、院政期以降の達磨宗文献と中世の説話文学・和歌文学に関わる文献とを比較しながら、秘伝化というプロセスについて考察したい。

お問い合わせ:03-3945-7401(国際禅研究プロジェクト)

kokusaizenkenkyuproject@gmail.com

※ 国際禅研究プロジェクトのホームページを開設しました。最新情報は下記をご参照下さい。

<http://www2.toyo.ac.jp/~ibuki/kokuzenken/index.html>